

第413回埼玉県内水面漁場管理委員会

議 事 録

開催場所	埼玉県水産研究所	担当書記	大力 圭太郎	
会議日数	自 令和3年12月22日 至 令和3年12月22日 1日間			
出席者数	委員定数13名中出席者10名			
出席委員	岡本 信明	坂本 均	島田 敬万	田中喜久雄
	新井 博	岡田 信義	大関 早孝	田中深貴男
	矢野 雅	古谷 愛子		
欠席委員	松本 泉	米田 和夫	大久保香里	
県出席者	農林部副部長	横塚 正一	生産振興課長	長谷川征慶
	担当副課長	青木 伯生	担当主幹	南原 恵子
	担当主任	大力圭太郎		
	水産研究所長	長嶋 聡	担当部長	山口光太郎
	主任	山田 建	技師	岡部 貴文
	技師	小山 知洋		
事務局	生産振興課長	長谷川征慶	担当副課長	青木 伯生
署名委員	会 長.....			
	委 員.....			
	委 員.....			

会議に付した議案並びに審議結果

審 議

議案番号	件 名	結 果

協 議

議案番号	件 名	結 果

報 告

報告番号	件 名	結 果
	コイヘルペスウイルス病に対応した放流手法の開発について	
	漁業協同組合のイベント活動について	
	令和3年度水産物の放射性物質検査について	

発 言 者	発 言 内 容
司 会	<p>第413回埼玉県内水面漁場管理委員会を開催します。</p> <p>本日は13名中10名の委員の出席をいただいております、過半数を満たしていることから委員会事務規程第6条の規定により本委員会は成立します。</p> <p>開会に当たり、会長より御挨拶をお願いします。</p>
会 長	<p>今回は委員の皆様から御要望が多かった、水産流通センターと水産研究所の現地視察を行いました。埼玉県が観賞魚の一大産地であること、また水産業に係る試験研究がどのように行われているかを知る、大変有意義な時間であったと思います。</p> <p>今後の委員会活動に当たり、参考にしていただきたいと思います。</p> <p>さて、本日の委員会は報告事項3件が予定されています。委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただき、有意義な議論が進められるよう、よろしくお願いします。</p>
司 会	<p>続きまして、農林部副部長より御挨拶を申し上げます。</p>
農 林 副 部 長	<p>本日は、現地視察も兼ねてということで、水産研究所までお越し下さいまして、誠にありがとうございます。</p> <p>先ほど御視察いただいた水産流通センターは、東日本最大の観賞魚流通の拠点となっており、また本県は観賞魚経営体数が全国第3位を誇る観賞魚生産県です。</p> <p>この地位を維持し更に高めていくため、昨年から水産研究所では、東京海洋大学と連携し、キンギョ養殖の大きな障害となっているキンギョヘルペスウイルス病への対策となる、弱毒生ワクチンの実用化試験を始めているところです。</p> <p>また、河川漁業においては、カワウや外来魚等により魚類資源の減少が著しかった荒川中流域の魚類の資源再生を図るため、ウグイ等の産卵環境整備や明戸堰下流に滞留しているアユの汲み上げ放流の手法を検討する事業を始めております。</p> <p>本県の内水面漁業は、魚や遊漁者の減少、河川環境の変化等様々な課題を抱えておりますが、課題解決のために関係部局や関係の方々との連携を一層深め、効果的に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>さて、本日の委員会ですが、報告事項として「コイヘルペスウイル</p>

	<p>ス病に対応した放流手法の開発について」など3件が予定されています。</p> <p>委員の皆様には慎重な御審議をお願いいたしますとともに、今後とも本県水産業の振興に御支援、御協力を賜りますようお願いいたしますして、私の挨拶とさせていただきます。</p>
司 会	第413回委員会を開催します。会長に議長をお願いします。
議 長	<p>委員会事務規程第11条に基づき、議事録署名委員に新井委員と田中深貴男委員を指名します。</p> <p>それでは、報告事項1「コイヘルペスウイルス病に対応した放流手法の開発について」を県水産研究所から説明願います。</p>
水産研究所	<p>当県では平成16年に県内でKHVの発生が確認されて以降、内水面漁場管理委員会指示により、コイの生きたままの持ち出しや持ち込みが禁止されています。このような中、漁業者からコイの放流再開が要望されており、水産研究所では放流再開に向けた試験を行っています。</p> <p>試験の概要ですが、ウイルスが増殖できない水温となる夏場に放流を行えば、感染はするが発症せずに免疫を獲得し、水温が低下してもそのまま発症しないのではないかと考え、KHVの汚染水域で各試験を行っております。試験は生け簀網での飼育試験と、飼育試験で問題がなければ放流試験を行うという流れで、県内3地点の池または沼で実施しております。</p> <p>試験結果としまして、現段階においてKHVの発症によりへい死した個体は確認されておりません。また、KHVによる大量死も確認されておりません。</p> <p>来年度以降は、河川でも同様の試験を実施する予定です。</p>
議 長	御意見・御質問はないですか。
委 員	試験時に供試魚はどれくらいのウイルス量に暴露されたかわかりますか？
水産研究所	分かるのはサンプル時に、KHVに感染していないということまでです。
委 員	免疫がついたと思われるコイについて、免疫がついているか確かめる

	ため感染実験等を行う予定はありますか？
水産研究所	今のところ予定はありません。感染実験を行うには、特定疾病でもありますので、他への感染対策を実施する必要があり施設的な難しさもあります。
委員	ウイルスフリーのコイを試験に用いたということですが、どのような系統のコイですか？
水産研究所	東京海洋大学の吉田ステーションから提供いただいた、ウイルスフリーのコイを水産研究所で継代飼育しているものです。
委員	吉田ステーションのコイはKHVがいれば死んでしまう系統のコイだと思います。 今、環境DNAを用いた調査研究が進んでいますが、水の中のウイルスを直接検査している事例はありますか？
水産研究所	環境水中から魚のDNAが検出されているという事例はあります。今後、方法が確立されれば放流の際の参考となるので、そのような手法を取り入れることも検討していきたいと思います。
委員	試験結果で、捕獲された1kg以下の野生魚の抗体値が低いようですが、これは生まれてからこの水域でKHVの感染が成立していないという認識で良いですか？
水産研究所	サンプル数が少ないので何とも言えません。
委員	琵琶湖のサーベイランスなどを見てもみると、稚魚期のコイは水際にいますが、100gくらいになるとどこに生息しているかわからないといった情報があります。確かに河川でも50～100gのコイは見つけにくい印象があります。委員の皆様の中で、このサイズのコイについて情報をお持ちの方はいらっしゃいますか？
委員	私は田んぼの周辺で子供たちと生き物調査を行っているのですが、そのサイズのコイやフナは農業排水路で多く見られます。数は場所により異なり、コンクリート護岸の排水路では少なく、豊かな生き物が住めるような排水路や、小さな川で多く見られます。

委員	<p>埼玉でのコイの生態を知ることは重要なことだと思います。KHVの感染は、感染履歴のあるコイが成熟し、多くのウイルスをだすようになった状態で、産卵期に集まり産卵行動を行うことで、次世代に感染が引き継がれていると考えられているためです。そのため、産卵期のKHVの水域の状況が気になります。また、この時期はコイが集まるため採捕しやすい状況でもあると思いますので、このことを踏まえ調査を行っていただければと思います。</p>
議長	<p>その他、御意見・御質問がありますか ないようですので次に移ります。 それでは、報告事項2「漁業協同組合のイベント活動について」を県水産研究所から説明願います。</p>
水産研究所	<p>漁業協同組合のイベント活動について調査を行いましたので報告させていただきます。なお、本事業は東京水産振興会からの委託事業によって行っているものです。</p> <p>内水面漁業協同組合は、組合員の減少が問題となっており、その活性化には新規組合員の確保が必要です。組合員の確保には、組合の活動内容を周知する市民参加型のイベントが有効であると考え、効果的なイベントを行うために、イベントの視察と参加者へのアンケートを実施しました。</p> <p>アンケートの結果、漁協が主体となって実施するイベントは満足度が高く、他のイベントへの参加意欲も高い結果となりました。中でも、「魚を捕る」ことに関心が強く、回答率が高いことがわかりました。漁協を知っている参加者は、3割強と半数以下でしたが、イベントに参加したことにより漁協の活動について知ることができたという回答が多かったため、イベントの開催は内水面漁協のPRとして有効であると考えられました。一方で、「もっと漁協について知りたい」、「漁協の組合員になってみたい」との回答は比較的少なく、漁協活動への関心が低いことがうかがえました。今回視察したイベントは、漁協が普段何をやっているかといった説明がほとんど行われませんでした。そのため、イベントの開始前に漁協活動について説明する機会を設ける必要があると思われました。</p> <p>また、「河川環境について考えるようになった」や今後参加したいイベントに「河川敷の清掃」を選択する参加者はあまりいませんでした。このことから、河川環境への意識向上効果は薄いと考えられました。</p>

	<p>今後、イベントの企画をする際には、釣り教室等の魚を捕るイベントを中心にごみ拾い等を複合して行えば、より良いイベントになるのではないかと思われました。</p>
議 長	<p>御意見・御質問がありますか ないようですので次に移ります。 それでは、報告事項3「令和3年度水産物の放射性物質検査について」を事務局から説明願います。</p>
事 務 局	<p>放射性物質検査は、平成23年3月の東日本大震災における東京電力第一原子力発電所の事故発生後、国のガイドラインに基づき、県産農水産物の信頼性確保のために調査を継続しているものです。</p> <p>水産物については、天然魚と養殖魚に分けて調査しています。</p> <p>まず天然魚は、過去に基準値(100Bq/kg)の1/2を超えた区域で、今までに基準値の1/2の超過が検出されたナマズ、コイ類・フナ類、ウナギと、隣接県で基準値を超えた河川のウナギを対象としております。</p> <p>ナマズ3検体、ウナギ1検体、コイ1検体を検査し、ナマズ、ウナギ、コイ1検体は検出限界値未満であり、残りのナマズ2検体も基準値以下でした。このうち、大落古利根川のウナギは、計画には入っておりませんでした。他の魚種とともに採捕され、検査に回されたもので、結果は検出限界値未満でした。</p> <p>江戸川及び利根川のウナギについては、まだ採捕できていないため採捕継続中です。</p> <p>養殖魚については、県内で養殖されている食用魚のニジマス、ナマズ、ホンモロコについて、主要な産地で検査を行っております。</p> <p>こちらは検査の結果、すべて検出限界値未満でした。</p>
議 長	<p>御意見・御質問がありますか ないようですので、本日の全ての報告事項について何か御意見・御質問ありますか</p>
委 員	<p>イベントの関係についてですが、漁協さん単独で行うのではなく、管理者である土地改良区などと一緒にいった方がPR効果などが高いと思います。</p>
議 長	<p>確かにもったいないと思います。漁協というものが意外と知られていないことにも驚きました。漁協の活動により、河川が守られていること</p>

	<p>を知ってもらえるよう、次からは力をお借りして、漁協のPRを行えば良いと思います。</p> <p>それでは本日用意されました、議題の全てを終了といたします。</p>
司 会	<p>以上をもちまして、第413回の内水面漁場管理委員会の会議を終了します。</p>